

令和4年度事業計画

I. 令和4年度事業経営の基本的考えについて

①基本理念

障害のある方たちが個人の尊厳を保持し、誇りと輝きをもって暮らし、働き、活動できる地域社会の構築のために支援活動をしていきます。

②運営方針

利用者、職員、役員が「今できることを法人全体で社会に還元」しながら、共に生きる喜びと感動に満ちた人生を送れる事業経営をしていきます。

③法人のビジョンと本年度の位置づけ

合併後、5年目の事業年度を迎えます。令和3年度は、現在も引き続くコロナ禍でレストラン事業を中心に大きな損害を被りましたが、各事業所において事業の見直しを図り、時勢に即した対応をしてきたところです。

令和4年度は、各事業所での事業の見直しを加速度的に推進し、生産年齢人口の減少・地域の衰退・家族機能の脆弱化等による生活課題の複雑化・困難化といった構造的な社会変化にはもとより、ポストコロナの時流にも対応できるよう各事業所の基盤を強化していきます。また、事業所内及び事業所間の関係をより柔軟かつ強固なものとし、法人一丸となって事業の充実を図ります。

II. 社会福祉事業について

令和4年度も全事業所で新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、陽性者が発生した場合には各区保健所及び医療機関と密に連携をとり、対応していきます。また、施設内でクラスターが発生した場合に備えて、サービスの提供を継続的に実施するための計画（業務継続計画）を策定します。

（令和6年4月以降義務化）

また、食材を始めとする原材料価格や水道光熱費が軒並み高騰しているため、各事業所で可能な限りの経費削減を図っていきます。

1. びあ拠点

びあ（主たる事業所）

・就労継続支援事業（B型） 定員40名

令和4年度は新規利用者を確保できませんでしたが、今後、中途利用者も含め増員に注力し、運営の安定に努めます。

①弁当事業

お弁当の製造・販売では、4月より生活支援員1名を雇用し、生産体制をより強化・整備していきます。安心・安全で美味しいと言われる製品の質の向上を図ります。

箸袋に付したQRコードアンケートの結果を、ほぼリアルタイムで共有できる体制を引き続き活用し、お客様のご要望やご意見を各部署で細かに把握し、製品に反映していきます。（訴求力の高いメニュー名への変更、見た目にも色鮮やかな盛付の工夫等）

課題としては、収集した客観的データの詳細な分析及び製造へのフィードバックやコロナ禍以降、減少している注文弁当への対策が挙げられます。

②燻製事業

燻製製品の製造・販売では、継続して製品の品質・生産の安定化を図り、美味しい「伊達の燻製」を提供していきます。昨年、入賞した新東北みやげコンテスト等のコンテストに積極的に応募することでバイヤーへの知名度アップを図り、各種販売会参加への引き合いに繋がります。

また、幅広い世代の目に留まるようECサイトに製品を卸し、ブランド力・販売力を高めていきます。

③受託事業

PC端末の基板解体・玉葱の袋詰め作業等の受託作業は、コロナ禍の影響が少なからず見受けられますが、希少な少人数での作業の場として、また、工賃財源の補助的な事業として令和4年度も続けていきます。

びあベーカリー（従たる事業所）

- ・就労継続支援事業（B型）

- ベーカリー事業

- 引き続き、国産小麦を使用した保存料無添加のパンを製造し、製品のラインナップに季節感を出すことで飽きのこない製品づくりを行います。令和3年度においては、各支援学校、行政庁舎、各区役所、自治会館、近隣企業等、小売の販路を中心に開拓してきたので、大口の受注が見込める卸先の販路を新規開拓し、売上の安定を図ります。

- また、従たる事業所として支援体制を整え、利用者を増やしていきます。

あしすとぴあ

- ・指定特定相談支援事業／指定障害児相談支援事業

- 障害のある方や家族からの生活に関する相談に応じるとともに、障害児・者福祉サービスを申請する際に必要となる「サービス等利用計画（案）」を作成していきます。また、市町村からの支給が決定した後は、障害福祉サービス事業者等との連絡調整やサービスの利用調整を行うとともに、支給決定を受けている障害児・者の生活状況や福祉サービスの利用状況等の確認（モニタリング）を行い、必要に応じて関係機関を集めた担当者会議を開催するほか、支給決定の更新、見直し等に関する調整も行います。

- 令和4年度も引き続き、各事業所をセルフプランでご利用の方に計画相談の導入を支援していきます。

2. レストランぴあ拠点

レストランぴあ

- ・就労継続支援事業（B型） 定員20名

- 4月から1名の新規利用者があり、事業所に定着できるよう職員一丸となって支援を行い、他の利用者の方への配慮も注視していきます。

- レストラン事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響により来客数が従来の3～5割程度に減少して以来、回復の見通しが不明な中で工賃の財源を確保するため、テイクアウトメニューに工夫を凝らし、行政庁舎内のみならず近隣への配達、青葉区役所での弁当販売等に注力していきます。

- レストランとしての営業は、引き続き感染防止対策を徹底しながら宮城県産の食材にこだわり、季節感あふれる和食・洋食の美味しいランチを提供するサービスを行っていきます。

- 来庁者が激減している現状では県庁職員の方の来店を促す仕組み作りが急務となっています。月に2回程度ランチコーヒー無料の日やスタンプカード等を導入し、サービスを向上させることで集客に繋がります。また、利用客からのリクエストの多い麺類をメニューに取り入れ、利用客のメニューの選択肢を増やします。

- 行政と連携した毎月第3水曜日の「みやぎ水産の日」や11月の食育月間への取り組みにより、憩いのひと時を利用客と共有していきます。

3. まどか拠点

まどか

- ・就労継続支援事業（B型） 定員30名

- 4月から2名の新規利用者があり、事業所に定着できるよう職員一丸となって支援を行い、他の利用者の方への配慮も注視していきます。

- ① レストラン事業

- ぴあてらすは、3年目の営業に入りますが、引き続きまどか農園や近隣の協力農家の農産物を中心とした旬の野菜を使用した四季を感じられるメニューを提供します。遠方からの来店者を見込むことは困難であることを鑑み、いかに近隣の方々を集客するかをテーマにメニューの内容や価格帯の設定を工夫します。

- また、利用客にも周知され、定着しつつある名取市役所、岩沼市役所、太白区役所を中心としたお弁当の販売を強化し、販売数を伸ばしていきます。

- 近隣住宅地へのポスティングはもとよりSNSを利用した広報を積極的に行うことで事業所の認知度を向上させ、利用客や地元人材の獲得を図ります。

- ② ベーカリー事業

びあぶらんでは、引き続き、国産小麦を使用した保存料無添加のパンやオリジナルクッキー、季節感のあるケーキ等を製造し、安定した売上を確保できるよう販路を開拓します。

クリスマスやバレンタインといったイベント毎に訴求力の高い数量限定のケーキを受注生産し、売上向上に繋がります。同時にクッキーや焼き菓子等のちょっとした手土産になるセットを製造し、新規の利用客にも利用しやすい店作りをしていきます。

③農園事業

農産物生産・販売作業では、小売はもとより時期ごとに収穫・仕入・販売できる野菜の種類・量等をリスト化し、弁当事業やレストラン事業に市場価格より安価で卸すことで売上の安定化と各事業の原材料費の圧縮に繋がります。生産面においては、野菜の種類を絞って作付けすることで一定以上の収量をあげ、生産量の安定化を図ります。

また、畑のフードロスとも言われる市場に流通しない規格外の野菜を乾燥野菜に加工し、製品化することで新たな市場の開拓を試みます。

④清掃事業（外部・内部請負清掃）

食品に携わる作業や販売作業等で衛生面の維持が難しい利用者の方のための作業として清掃業務を受託していきます。

4. まどか西中田拠点

まどか西中田

・就労継続支援事業（B型） 定員10名

支援区分の高い利用者の方が多い中で収益性の高い生産活動には限界があり、なかなか職員の努力だけでは工賃アップに繋がらない現状にあります。今後の支援の方向も見据えていく必要があります。

①農産物販売事業

まどか農園や近隣地域で生産された野菜を仕入れ、販売します。利用者の方にとって近隣住民の方と接する貴重な機会となっています。

②PC 端末基板解体事業

小型家電を分解・分別し、レアメタルを取り出し、資源の再利用をする事業としてPC 端末等の基板を分解・分別する作業を行います。

コロナ禍による経費削減のため企業が PC 端末の入替等を控える傾向にあり、入荷数が減少していることが課題となっています。

③その他受託事業

法人内外からの作業を受託します。（近隣保育園の清掃、古新聞の再利用化）

・生活介護事業 定員10名

4月から1名の新規利用者があり、利用者数が10名になります。

常に介護を必要とする方に対して、食事・排せつ等の介護、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。また、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上を目的として通所により様々なサービスを提供し、利用者の社会参加と福祉の増進を支援していきます。

月2回程度、専門の講師を招き、発声やリズムダンスによる音楽療法を行います。成果も出ており、利用者の方々も楽しみながら参加しています。

自立通所が難しい方には引き続き送迎支援を行います。

5. 遠見塚拠点

びあびーんず

・共同生活援助事業 とおみ：定員4名（女性）／ごりん（仮称）：定員7名（男性4名・女性3名）

障害のある方にとって生活の場として重要な事業になっています。各家庭の諸事情に対応できるよう支援体制を整え、安心のできる心豊かな充実した共同生活が行えるよう事業を運営します。

進捗が遅れている宮城野区五輪の新規グループホームの建設について施工業者とも検討を重ね、一日も早い竣工、稼働を目指します。また、建設と並行してグループホーム説明会を開催し、具体的なイメージ図や入居要件等を示し、入居希望者を募っていきます。

Ⅲ. 広報活動について

より多くの方々に法人や事業所の活動状況を知っていただくために、令和3年度に全面リニューアルしたホームページを引き続き活用し、積極的に情報を発信します。毎日の販売弁当の内容やイベント等については随時 Facebook を利用し、発信していきます。

各事業所のリーフレットやショップカードを各店舗に備え付けることでロコミ等での周知をひろげます。また、事業所見学者等に配布することで事業所の特色をよりイメージしやすくし、利用に繋がります。

Ⅳ. 地域生活支援事業（余暇活動）について

・コーラス活動（びあま〜る）

引き続き、在仙アーティストの猪狩太志氏の指導の下、月2回のペースでコーラス練習会を重ね、日常生活の自信と誇りに繋がるよう発表の場を設けていきます。新型コロナウイルス感染症の状況によってはリモートや配信での参加や発表会自体の中止・延期も考えられますが、「とっておきの音楽祭2022」「宮城野うたまつり」「福祉まつり ウェルフェア2022」等での発表を予定し、輝ける自己表現の場とします。今後、社会との懸け橋になるように利用者・ご家族・後援会会員の方だけでなく多くの方の参加を促していきます。

・卓球練習会

スポーツに勤しむ機会の少ない利用者の方々の体力向上とストレス解消を図り、障害者スポーツ大会の参加を目指して活動を行います。

・社会活動参加事業について

①利用者の方たちと職員が集う暑気払い、クリスマス・忘年会、芋煮会、バーベキュー等、楽しい時間を共有していただけるように新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら機会を作っていきます。

②研修旅行について

令和4年度の研修旅行は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、感染症対策に万全を期した日帰り社会研修旅行を企画します。

Ⅴ. 健康管理について

令和4年度も利用者・職員等の健康維持のため、健康診断を引き続き実施し、利用者の方々には嘱託医の金野公一医師及び沖田内科医院の沖田医師のご指導の下、また、まどか西中田の生活介護事業には看護師を配置し、健康管理に留意していきます。

Ⅵ. 職員研修について

- ・職員の資質向上を目指して、法人内研修を企画し、法人外の研修及びセミナーにも積極的に参加していきます。
- ・社会福祉に関わる国家資格（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士）取得のための法人助成制度を設け、資格取得者には資格手当を支給します。